



審査員／パネリスト

齋藤 潤一 氏

AGRIST株式会社代表取締役

一般社団法人ローカル・スタートアップ協会 代表理事

2017年4月宮崎県新富町役場が設立した地域商社「こゆ財団」の代表理事に就任。1粒1,000円ライチの開発やふるさと納税で寄付金を累計約100億円以上集める。19年10月に農業課題を解決するために収穫ロボットを開発するAGRIST株式会社を創業。ForbesAsia 100など国内外20のアワードを受賞。

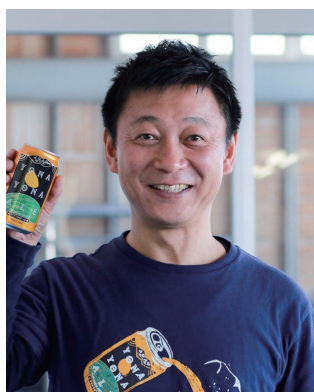


パネリスト

石井 芳明 氏

中小企業基盤整備機構創業・スタートアップ支援部長

経済産業省にてスタートアップ政策、中小企業政策に従事。J-Startup、始動Next Innovator、新SBIR制度、スタートアップ・エコシステム拠点都市、日本スタートアップ大賞、などの創設を担当。スタートアップ育成5か年計画の策定にも参画。2024年7月より現職にてスタートアップ支援の実施を強化中。



ヤッホーブルーイング

審査員／パネリスト

井手 直行 氏

株式会社ヤッホーブルーイング代表取締役社長

国立久留米高専電気工学科を卒業後、電気機器メーカー、広告代理店などを経て、1997年ヤッホーブルーイング創業時に営業担当として入社。地ビールブーム終焉の後、再起をかけ2004年楽天市場店の店長としてネット通販事業を軸にV字回復を実現。2008年より現職。著書に『ぶしゅ よなよなエールがお世話になります』



おてつたび

パネリスト

永岡 里菜 氏

株式会社おてつたび代表取締役CEO

千葉大学卒業後、PR企画制作会社勤務、農林水産省との和食推進事業の立ち上げを経て、独立。2018年株式会社おてつたびを創業。「誰かにとつての“特別な地域”を創出する」をミッションに、人手不足で困る地域の農家や旅館と、旅人が出会えるマッチングプラットフォーム“おてつたび（お手伝い×旅）”を運営中。



審査員

性西 裕之 氏

ティーエスアイ株式会社 (TSI) 取締役会長

株式会社イオンテクノセンター取締役会長

ベンチャーキャピタル(日本アジア投資)勤務後、TSIを共同創業。大学発ベンチャーなど、創業投資に特化した事業育成業を展開。イオン工学研究所については社長として研究所モデルから事業会社モデルへの転換と再生に成功。



ファシリテーター

鳥居 希 氏

株式会社バリューブックス代表取締役

一般社団法人B Market Builder Japan共同代表

2015年、書籍の買取・販売を行うバリューブックス(長野県上田市)入社。同社にてB Corp™の認証取得に向けて取り組む。B Corpムーブメントの一助となるべく『B Corpハンドブック よいビジネスの計測・実践・改善』を翻訳、2022年6月出版。2024年3月、B Market Builder Japan設立。2024年7月、バリューブックス代表取締役就任。



### 「起業家ピッチ」って何？

「信州ベンチャーサミット」において、イベントの中心になるのは「起業家ピッチ」です。起業に関心のある方にはすっかりお馴染みになった「ピッチ」。でも、起業や投資に関心のない方には「？」の単語に映ることでしょう。

このページでは、ピッチとはそもそも何なのかを解説します。

ピッチの発祥はアメリカ南部のシリコンバレー。世界に冠たる企業がこの地で生まれて、大きく成長していることは周知の事実です。起業家を育み、育てる土壌がここにはあります。

今も起業を志す若者たちが熱いプレゼンを繰り広げており、事業計画が投資家の目にとまれば、多額の資金を得て、市場という大海原へと乗り出すことが可能になります。こうした投資へのプレゼンがシリコンバレーでは「ピッチ」と呼ばれています。アメリカ発のこの単語が日本のマスコミ業界等にもじわじわと広がり、国内でも使われるようになったようです。

ところで、「プレゼン」と「ピッチ」の違いはどこにあるのでしょうか。

プレゼンはサービスや製品を売り込む際に、その魅力を説明するためにパワーポイントを駆使して、徹底的に顧客に訴えるようなイメージがあります。それを聴く相手側は、ある程度の予備知識等を持っている構図。市場に出回っている既製品の魅力を訴えることが多いのではないのでしょうか。

これに対してピッチは、起業家が新しい事業やサービスをプレゼンすることに違いがあります。既製品の説明ではなく、まだ世の中に生まれていない新しいものをアピールするところに特徴があります。

実際にピッチを体験してみませんか？

様々な面白いプランやアイデアに思わず聴き入ってしまいます。自分がこれまでに経験しなかったものの見方や考え方に触れることは、新鮮な体験として皆さんの記憶に残るでしょう。

長野県がシリコンバレーに負けない起業家発祥の地になることを願い、本イベントは「起業家魂を信州から世界へ」と、サブタイトルが付けられました。

### 発表者一覧

登壇者名	会社名	役職
田中 詠一	株式会社 Goat Plus	代表取締役
美濃部 慎也	株式会社ユカシカド	代表取締役CEO
今立 朝斗	株式会社Unseed	AIソリューション事業部 事業責任者
佐々木 恭助	株式会社アンバーロジックス	代表取締役
中嶋 啓太	ゴミナクス株式会社	代表取締役
佐藤 駿	株式会社note	代表取締役
峠下 周平	株式会社FLIGHTS	代表取締役
中沢 冬芽	株式会社Alumnote	代表取締役CEO
岩見 義明	株式会社グリーンベネフィット	代表取締役



### 株式会社GOAT PLUS

#### 市民とハンターの命を守る「緊急銃猟 DX」

田中 詠一 氏

株式会社 Goat Plus 代表取締役

株式会社Goat Plusは、2025年の法改正で自治体に課される「住宅地での銃猟判断」という重い責任を支え、市民の命を守る「緊急銃猟包括支援サービス」を展開します。

現場のアナログな指揮や法的判断の不安に対し、弊社はまず、国の指針に準拠した「運用マニュアル」と、状況をリアルタイム共有する「Web アプリ」を提供し、意思決定をデジタル化・標準化します。

さらに、本事業は単なるツール提供にとどまりません。自治体単独では維持困難な「弁護士」「獣医師」「特殊捕獲部隊」等の高度専門リソースを、有事に必要な時だけ提供するシェアリングモデルへと発展させます。平時の「デジタル訓練」から有事の「実働支援・法的防衛」までを包括的にサポートすることで、導入自治体のコストとリスクを劇的に低減します。

「所有」から「利用」へ。この長野発の社会インフラで、全国の獣害課題を解決します。



#### 世界の栄養課題を解決する

#### パーソナライズ栄養食「TYPE FOOD」

美濃部 慎也 氏

株式会社ユカシカド 代表取締役CEO

「国内外を問わず平等な環境と機会の創造」をミッションに掲げる、パーソナライズドニュートリション事業のスタートアップ企業です。世界で初めて尿から栄養の過不足を科学的に評価し、検査結果に基づく最適な食品提供を実現。長野県松本市の自社検査センターと製造工場を併設した「ユカシカドFACTORY」による、一貫した検査・製造・出荷体制の構築。日々の体調管理やパフォーマンス向上を支える栄養コンディショニングを推進。科学・テクノロジー・ものづくりを融合したモデルによる、世界の栄養課題の解決に取り組んでいます。



## 起業家ピッチ 登壇者

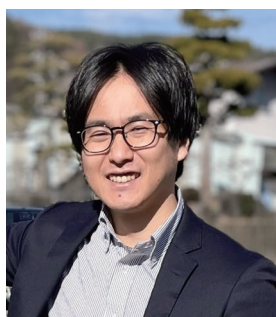


### 知識共有を高度化する高セキュアAI基盤

今立 朝斗 氏

株式会社Unseed AIソリューション事業部 事業責任者

Unseedは、東京大学 松尾研発・信州大学発のフルカスタムAIスタートアップとして、企業固有の業務フロー・環境・データ構造に最適化された高度なAIソリューションを開発しています。東急不動産ホールディングスをはじめ、不動産、製造、インフラ、自治体、金融など幅広い領域で、画像AI・生成AI・LLM/RAG を中心とした先端技術を実運用レベルで提供しています。特徴としては、既存APIやパッケージを当てはめるのではなく、課題の本質整理から、データ収集・前処理、モデル選定・学習、評価指標設計、運用改善までをフルスクラッチで設計する点になります。特に、高精度LLM/画像モデルの実装、業務専用のRAG基盤構築、セキュアな閉域ネットワークでのAI稼働など、企業の機密性や高精度要求に応える独自技術を強みとしています。精度の高いPoC設計から本番運用まで伴走し、DXの実利を出すことにこだわっております。



### スマート田んぼ水管理サービス

「田んぼへGo」

佐々木 恭助 氏

株式会社アンバーロジックス 代表取締役

私たちは過去5年間、茅野市にある公立諏訪東京理科大学でIoT環境センサシステムの研究に取り組み、河川・農業用水路・水田等の58箇所に水位センサを設置し、スマートフォンで遠隔監視できるシステムの構築・運用をしてきました。この実証で得られたノウハウを活かして1年半前に起業し、低消費電力で安価かつ、水田で安定動作する水位計を自社開発しました。この水位計を核にして、米農家が毎日行う「田んぼの水管理」を地域住民に委託できるスマート水管理サービス「田んぼへGo」を計画しています。田んぼに設置した水位センサのデータを農家が遠隔で確認し、水門開閉を依頼するとネットで通知され、近隣住民が農家に代わって水門を操作します。農家が支払う利用料は作業者に分配されます。複雑な機構を持つ自動水門と異なり、本システムは低コストで即実用化が可能です。高齢化が進む農業を支える、これまでにない新しいサービスです。

## 起業家ピッチ 登壇者



### 様々な食品廃棄物から バイオ製品へ転換するプラットフォーム事業

中嶋 啓太 氏

ゴミナクス株式会社 代表取締役

ゴミナクスは、多様な食品廃棄物を高付加価値のバイオ素材へ転換する研究開発プラットフォームを提供しています。酒粕・米ぬか・果皮・菌床といった原料を受け取り、化学分析・機能成分抽出を行い、化学的改質（低分子化、抗菌性付与、生分解性工場など）による高付加価値化を経て、用途に応じた素材設計、プロトタイプ作成など行います。アウトプットとして、バイオレザー、バイオフィ이버、バイオプラスチック、バイオ化粧品など、多領域に応用可能なサステナブル素材を創出し、複数のアップサイクルメーカーと連携し、PoCから製品化・量産化・市場導入まで伴走することで、企業の脱炭素型ものづくりを加速する実装指向のR&D基盤です。



### 障害のあるクリエイターとの やさしさの循環システム

佐藤 駿 氏

株式会社note 代表取締役

株式会社noteは、「世の中を精神的に豊かに」をビジョンに掲げ、軽井沢町を拠点に、自社が運営する児童福祉教室「unico軽井沢」の職員とともに、障害のあるクリエイターと共創し、作品・デザインを生み出すアートブランド「Suu to.」を立ち上げる。Suu to.が目指すのは、「点と点」の一過的な支援ではなく、表現するクリエイターも、寄り添いながら引き出す福祉専門職員も、創作を導くアトリエリスタも、すべて自社で育成し、そしてこの想いに共感し関わる全てのひとの「やさしさ」が1つになり、だからこそ生まれるクオリティの高い作品たちを、社会と繋げること。そして「やさしさ」の循環を育てることがSuu to.の本質です。ヒト・モノ・お金・想いが、社会→アトリエ・クリエイター→児童福祉施設に巡り、福祉事業の根幹テーマである権利擁護と人材問題を包括的に解決するエコシステム（やさしさの循環）の構築を目指します。



**FLIGHTS**

**土木工事の進捗の可視化  
および業務DXの提供**

**峠下 周平 氏**

株式会社FLIGHTS 代表取締役

建設需要が旺盛な一方で、高齢化による就労人口の減少や労働生産性の低さなどが課題となっている建設業向けに計測関連の事業を展開。ドローンやIoTデバイスの有用性が認識される中で、建設業において高いデータ精度とリーズナブルなコストを両立するソリューションが実装に不可欠となる。

弊社FLIGHTSは、土木分野に精通したエンジニアを中心にR&Dからプロダクトまで実装を手掛けており、現場でユーザに支持される業務DXアプリケーションを提供している。

特に公共測量向け計測ツールおよび橋梁点検においては国内トップの実績である。

今回、特に人手不足感の強い土木工事向けに作業の進捗管理や検収のためのデータ取得および解析の自動化システムを提供し、建設現場の課題解決を行うシステムについて紹介する。



**alumnote**

**地方創生 × 大学支援 × 早期キャリア  
形成モデルの実装**

**中沢 冬芽 氏**

株式会社Alumnote 代表取締役CEO

「次世代の教育に資本をまわす」ミッションのもと、大学財政難を解決する国内唯一のスタートアップです。文部科学省後援の学生による資金調達イベント「Giving Campaign」では、これまでに全国120大学・160万人のDBを構築し、国立大学においては70%と取引がごじます。

大学ファンドレイジング支援事業では、名簿整備SaaSとHR事業を組み合わせ、企業の採用費を大学寄付に変換する独自の資金循環モデルを展開しています。

2025年には、大学横断型コミュニティプラットフォーム「Cross Campus」をリリースしました。就活潜在層（1～3年生）11.2万人にリーチでき、企業・自治体・大学をつなぐ三方良しの仕組みを提供します。



**GREEN BENEFIT**

**地元間伐を活用した天然繊維の普及と  
森林環境への還元**

**岩見 義明 氏**

株式会社グリーンベネフィット 代表取締役

森の恩恵を利用し還元を繰り返すグリーンベネフィットという考え。

森林を未来へつなぐには、単に保全するだけでなく、「森林資源（森の恩恵）」という観点から、使うことと守ることを両輪にした循環をつくることが不可欠です。日本は長らく「伐らない林業」を続けてきた結果、手入れされない人工林が増え、生態系・治水・景観・資源としての森林の機能が低下してきました。森林の有効利用と、正しい還元を繰り返し、生態系と共存できる産業が必要です。

森林環境を持続するためには、森林を「資源（恩恵）」として正しく評価し、適切に利用しながら、その価値を森林へ還元する循環型の仕組みが必要です。利用と還元を繰り返すことで、森林は健全性を保ち、生態系と調和した産業として成立する。この循環を実現することこそが、日本の森林資源を未来へ継承する最も重要な戦略だと考えています。

## プログラム ※都合により変更の可能性もございます。予めご了承ください。

**13:00～13:05 開会の挨拶** 有限責任監査法人トーマツ 長野事務所長 朽木 利宏

**13:05～13:15 主催者スピーチ** 長野県 産業労働部長 米沢一馬

**13:15～14:05 パネルディスカッション**  
パネリスト 中小企業基盤整備機構創業・スタートアップ支援部長 石井 芳明 氏  
株式会社おてつたび代表取締役CEO 永岡 里菜 氏  
AGRIST株式会社代表取締役 齋藤 潤一 氏  
株式会社ヤッホーブルーイング代表取締役社長 井手 直行 氏

**14:05～14:15 休憩**

**14:15～16:05 起業家ピッチ**

**16:05～16:25 休憩**

**16:25～16:55 表彰式**

**16:55～17:00 閉会の挨拶** 株式会社八十二銀行 営業渉外部 部長 伊藤 秋成

**17:00～18:00 交流会**